

福島第一原子力発電所 土壤中のPu分析結果

1.測定結果

(単位：Bq/kg・乾土)

| 採取場所<br>( )は1,2号機スタックからの距離 | 採取日<br>分析機関 | Pu-238                          | Pu-239+Pu-240                   |
|----------------------------|-------------|---------------------------------|---------------------------------|
| グラウンド(西北西約500m)            | 3月12日       | $(2.0 \pm 0.49) \times 10^{-2}$ | N.D. [ $<1.1 \times 10^{-2}$ ]  |
| 野鳥の森(西約500m)               | 日本分析        | N.D. [ $<1.9 \times 10^{-2}$ ]  | $(2.0 \pm 0.60) \times 10^{-2}$ |
| 産廃処分場近傍(南南西約500m)          | センター        | N.D. [ $<1.4 \times 10^{-2}$ ]  | $(2.9 \pm 0.64) \times 10^{-2}$ |
| 国内の土壤                      |             | N.D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$  | N.D. $\sim 4.5$                 |

[ ]内は検出限界値を示す

: 文部科学省「環境放射線データベース」昭和53年～平成20年

: 「グラウンド」「産廃処分場近傍」は、過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。「野鳥の森」は同じポイントを深さ方向に採取(採取不可となった時点でポイント変更)

2.評価

3月12日に検出されたPu-238とPu-239+Pu-240の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

なお、平成23年3月21日以降にサンプリングした試料からPu-238およびPu-239+Pu-240が検出されている箇所があるが、値に大きな変化は見られていない。

以上